

旬刊

福利厚生

No.2305

ISSN1343-568X

特集

高齢者世帯は月額3.3万円の赤字家計 老後生活費は確保できるか

連載

福利厚生で良い会社が分かる!ハタラクエール2020(5)
株式会社アイオス
平成医療福祉グループ

連載

定員の50%を地域枠とし地域との信頼構築
探訪!我が社の保育園(進化する企業内保育事業)(18)
KDDIエボルバ「こどもカンパニー東札幌園」

連載

福利厚生制度の設計から規程整備まで(最終回) 可児俊信
昼食支援と食事手当

2020
October

10

上旬号



労務研究所

KDDIエボルバ「こどもカンパニー東札幌園」

～通勤至便な最新オフィスに併設された企業主導型保育園～

KDDIの100%子会社であるKDDIエボルバは、2019年東札幌に大型のコンタクトセンターを開設。1階に設けられた「こどもカンパニー東札幌園」は、子育て中の社員が能力を十分発揮できる環境づくりとともに、地域共生・地域貢献を目的に開設された。定員84名の広々としたこの園は、大規模な企業主導型保育園として定着しつつある。

■大規模保育園ならではの魅力ある施設

KDDIエボルバPolaris_Sapporoは、札幌市中心街の大通公園からほど近い地下鉄東札幌駅から徒歩3分の通勤至便な場所にある、最新鋭のコンタクトセンターだ。

「地元へ愛され、企業のお客さまへの想いと社員1人ひとりを『つなぐ』センター」をコンセプトに自社設計され、社員がイキイキと笑顔で働ける執務環境として昨年オープン。この札幌センターは最大2,000名が働ける広さとともに、中庭に面した300席規模の社員カフェテリアなど、快適な工夫が各所にある。

1階に併設された「こどもカンパニー東札幌園」は、0歳から就学前まで84名を預かることができる大規模な園だ。室内に入ると、フラットで開放的な空間に目を奪われる。フロアや調度は、木材の明るさとぬくもりの質感で統一され、心地よさを覚える。

施設内のレイアウトはシンプルで、死角や段差の少ない空間設計とあいまって、清潔感と安全性が確保されている。専用の園庭もあり、広い室内でのびのびと活動する子どもたちが印象的だ。

大規模園ならではの充実した保育内容も魅力だ。例えば、保育中での発熱など、体調変化によるお迎えコールの心配がない体調不良児保育対応としての看護師常駐体制がある。

また、読み書き・算数のみならず英語教室や体操教室などのプログラムによる就学準備にも注力した教育重視の姿勢など、安心して預けられる運営がなされている。

そのほか、タオルやおむつなど、持参する手荷物は最小限に抑え、公共交通機関で通勤する際の負担軽減にも、きめ細かな配慮がある。

株式会社KDDIエボルバ「こどもカンパニー東札幌園」概要

(2020年7月現在)

設置形態	企業主導型保育（2019年5月開園）
場所	札幌市白石区東札幌2条1丁目2-7 KDDIエボルバ Polaris_Sapporo 1階
利用対象者	KDDIエボルバ従業員、地域住民
定員	84名（0歳～未就学）
施設面積	保育ルーム面積 450.31m ² 園庭面積 171.80m ²
設備形態	保育室、調理室、園庭、医務室、事務室、トイレ
保育形態	月極保育、1日保育、一時預かり、病児保育（体調不良児保育）
開園日	月曜日～土曜日（休園日：日曜、祝日、年末年始）
保育時間	7:00～20:00（13時間開園/延長料なし）
サービス	（一部オプション）手ぶら登園（タオル、布団、自園給食・ミルク・夕軽食）、習い事込み（英語・体操・もじかず）
保育園設置・運営者	クリーンハウス（株）設置形態／企業主導型保育

「こどもカンパニー」の保育理念

本来その子が持っている自己肯定感（生きる源泉）を育み、社会で生きていくチカラを養う。

保育目標

一人ひとりの個性を認め自発性を尊重しその子に応じた養護と教育を行う。

対話を通じて「聴く・話す・問う」というサイクルを繰り返し、問題解決能力・論理的思考能力を鍛える。文化の集まる中心地という立地を最大利用し、子どもたちに様々な本物の体験を用意する。



■自社と地域の課題をともに解決するために

KDDIエボルバでは、多くの女性がコンタクトセンターのオペレーターやスーパーバイザーとして活躍している。札幌センターで働く約60%が女性だ。スペシャリストを目指して働ける環境でもあり、責任者として長く就労する主婦層も多く、出産・育児に直面する世代の層が厚い。札幌でも通勤に便利なエリアでは保育園の空きが少なく、出

産・育児の長い休み明けの不安への対策が求められていたことが、園の開設につながった。

開園時間は7:00～20:00の13時間。コンタクトセンターのシフト勤務時間帯、早番、遅番などに合わせて利用でき、延長保育という考え方は採らない。取材時点の園児数は50名だったが、うち30名が自社社員の利用だという（子育てママ25人、パパ5人）。「園ができて復職しやすかった」「勤務時間の幅が広がってうれしい」「お迎え時間への焦りがなくなった」「災害など万一のときにも近くなれば安心」「子連れ通勤がしやすい」など、開園から1年、社員たちの役立ち実感も増えている。

企業主導型保育園として、定員の最大50%までを地域利用枠に設定しており、取材時点で20名が地域枠利用だった。札幌市は、行政による雇用創出の取り組みの奏功により子育てをしながら働く女性が多い。そのため、札幌駅周辺や「駅チカ」の保育園には、待機児童が多く抽選待ち。駅から離れると入れる園も増えるが、自宅・勤務先・保育園間の距離が長く移動には負担が大きい。それは自社の社員のみならず、地域の家庭に共通する課題であり、地元で愛される企業としての地域貢献の観点からも、企業主導型保育園を新しいセンターに併設し、保育園運営事業者を誘致した。この判断は明らかに成果を上げ始めている。

■開園2年目以降の新たな取り組みへ

「開園2年目に入り、新型コロナ対策はもちろん、安全・安心な運営管理と保護者との信頼構築など、園運営の土台が構築できたので、今後は一層子どもたちの自発性・主体性を伸ばす取り組みを進めます」と語るのは、園の設置・運営を担って

フラットで広い室内空間で運動も学習ものびのび



「こどもカンパニー東札幌園」が併設された札幌センター



いるクリーンハウス（株）の渡辺和寛副社長だ。東札幌の街をフィールドにした本物に触れる活動体験や、EQ・IQをバランスよく伸ばす教育プログラムの充実など、未来に向かう子どもたちの大事な時期を、保育スタッフとともに、楽しみながら個性豊かに育む時にしたいという。

札幌センターを統括するKDDIエボルバ札幌HR部の相徳光穂部長からも、「感染症予防や安全管理の観点から、園とセンターの交流は減っていましたが、それらに十分留意しつつ、今後は働く親御さんと園児との交流イベントなど、子育ての場があるセンターというコミュニティのあり方を具現化していきたいです」との意欲が聞かれた。

高い業務功績などを表彰する年1回の祝典パーティ「Evolva Award」の場への、園児と保育スタッフの参加のほか、地域利用の家庭も含めたイベントも検討中だ。

育児の場を組み込んだ新しいコンタクトセンターのかたち、大規模な企業主導型保育園のひとつのかたちが、ここに定着しつつある。

認可保育園レベルのスタッフを配置、教育面も充実

